

日本小児精神神経学会 第 39 回研修セミナー特別講演

演題名：「あそびを育てるまなざし
～子どもの「主体性」とは何か～」

講 師：北海道大学大学院教育学研究院・教授 /
附属子ども発達臨床研究センター・センター長 川田 学

講演者は、乳幼児期の発達を保育実践との連関の中で理論化する研究を行ってきた発達心理学者である。国際的にも日本国内においても、1960年代あたりを節目として、普遍性を前提とする発達段階論がピークに達し、1970年代からは様々な角度から発達観の問い直しが起こってきたといえる。保育の文脈においても、一方で人的資本論に基づいて実践の効果を発達アウトカムとして評価する動向があるが、他方では実践を通して共同生成される意味世界に価値を置く議論も活発であり、発達観・実践観のあり様は動的である。

講演者は、保育等の「人の育ち」に関与する仕事において、科学的な発達の知見は有意義であると思うが、実践の基盤に個人能力主義ではなく、関係論的・文脈的な子ども観が醸成されていることが肝要であると考えている。これは、現在教育界の流行語ともいえる「主体性」の概念とも関わってくる。主体性が個人の能力や態度のようにとらえられ、学校教育では評価の指標にもなっている。こうした主体性の定義と評価は、むしろ大人に都合のよい姿を子どもに強いる構図になっていないだろうか。

また、乳幼児の主たる活動があそびであると考えれば、「あそび」に対してどのようなまなざしが社会の空気感となっているかも見逃せない。能力獲得のためのあそび（効能論）はもちろん、あそびを「すべきこと」（労働、勉強）の余暇としてみる（余暇論）だけでも、子どもたちのあそびの世界を保障しきれないのではないか。あそびそのものを育てる視点が、「人の育ち」に関与する仕事には不可欠であると考えている。本セミナーでは、保育現場を中心にエピソードをあげながら、あそびを育てる実践のまなざしを考察していきたい。

日 時：2026年6月27日（土）9：30～11：30

会 場：砂防会館（〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-4）

参 加 費：本学会員は無料。非会員（学会間協定のある日本乳児・心理学会員を含む）は2,000円。
申し込み：第135回大会HPより申し込み予定

単位認定：日本小児科学会 小児科専門医更新単位「Ⅲ小児科領域講習」の1単位取得を予定。

講師プロフィール

北海道大学大学院教育学研究院・教授、附属子ども発達臨床研究センター・センター長。博士（心理学）。東京都立大学大学院を経て、2005年から香川大学、2010年から北海道大学に奉職し、2025年より現職。専門は発達心理学、保育学。保育所や幼稚園等の実践アドバイザーや研修講師を務めるほか、札幌のNPO法人子育て応援かざぐるま・理事として、子育て支援者や保護者に向けた研修冊子や講座などを運営。現在、北海道こども施策審議会・会長として、子どもに関わる施策に子どもの声をどう反映させていくか、研究者としての応用問題に取り組んでいる。主な著書に、『子どもをあらわすということ』（北大路書房）、『保育の発達論のはじまり』（ひとなる書房）、『子どもの世界を守る：遊び・育ち・経験』（明石書店）、『0123 発達と保育：年齢から読み解く子どもの世界』（ミネルヴァ書房）などがある。